

## 枕草子

春はあけぼの。やうやうしろく成行、山ぎはすこしあかりて、むらさきだちたる雲のほそくたなびきたる。

夏はよる。月の比はさらなり。やみも猶ほたるの多く飛ちがひたる。又、たゞひとつふたつなどほのかにうちひかりて行もをかし。雨など降もをかし。

秋は夕暮。夕日のさして山のはいとちかうなりたるに、からすのね所へ行とて、みつよつふたつみつなど、とびいそぐさへあはれ也。まいて鴈などのつらねたるがいとちいさくみゆるは、いとをかし。日入はてゝ、風の音、むしのねなど、はたいふべきにあらず。

冬はつとめて。雪の降たるはいふべきにもあらず。霜のいとしろきも、又さらでもいと寒きに、火などいそぎおこして、炭もてわたるも、いとつきづきし。昼に成てぬるくゆるみもていけば、火をけの火もしろきはいがちに成てわろし。